



# 不登校生の留学体験記



**DREAM ON WITH IGE**

【お問い合わせ先】 E-mail: [info@weexchange.com](mailto:info@weexchange.com) WEB: [www.weexchange.com](http://www.weexchange.com)



# **CONTENTS**

---

- 
- **Tamami Aokage**さん **P3&4**
  - **Akira Ando**くん **P5&6**
  - **Shiho Notsu**さん **P7&8**
  - **Oki Sei**くん **P9&10**





## TAMAMI AOKAGE

広島県福山市出身。日本での不登校から一転。アメリカの高校ではオールA。現在、UCLA医学部在学中。

高校1年生の時は、学校に行ったり行かなかったりの繰り返しでした。学校に行く意味がわからなくなったのです。又、親から「医者になりなさい」と言われ続け、プレッシャーも受けていました。思春期ということもあり、反発するようになり、サッカーの追っかけを始めました。これも学校に行かなくなった原因の一つです。



寮生活を共にした、高校の友達と

しかし一番大きな原因は、学校と教師に対する不信感が根底にありました。生徒に対する愛情を感じられない先生、ただ就職のために先生になったとしか思えない様な無気力で無関心な先生、大学受験のためだけの勉強、それら全てに疑問を感じていたので。なので、進学校に通っていたにもかかわらず、進学する気が全く無くなっていました。

その頃、3週間だけイギリスへ体験留学することになりました。英会話グループでの団体旅行のはずが、なぜか1人で行くはめに。初めての海外旅行だったこともあり、不安でいっぱいでしたが、初めて1人で行動することによって、自分に自信を持つことができたのです。又、そこで出会った友達との語らいがきっかけで、留学しようと決意しました。

帰国後、日本にこのままいても意味が無いと思うようになり、高校2年の時ネットでアメリカ留学を調査しました。IGE社長の娘さんの話を聞いた後に、自分を重ね合わせることができ、アメリカ留学を決意！

高校に留学したのは、2003年の3月です。私はこの高校留学で、全てに目覚めました！高校の印象は、自由！最初はその自由さにも戸惑いましたが、その中で、自分を探すというのが一番重要課題だと気が付きました。又、生徒と先生の関係が日本とは全く違い、先生とは家族のようなコミュニケーションを取ることが出来ました。先生を名前と呼んだり、先生の家でお泊まり会を開いたり、一緒に買い物に行ったりと、まるで友達や家族感覚。

日本で家族とコミュニケーションをとるのが難しかった分、そこで強い関係を結べたのが、前進の全てだと思います。それから、アメリカは個性をのぼすことを重要視しています。教室では人の目を気にしないで、自分の意見を述べる事が重要であることを学びました。ここでは、自分の好きな服を着ることや、パーマもピアスも、それぞれの自己表現なのです。

一方、日本では、制服から髪型まで何もかも一緒。外れると白い目で見られます。しかし、アメリカにはいろんな人種がいるし、趣味も多彩。パンク。ヒップホップ。それぞれのジャンルを認め合うのが文化なのです。本当に、伸び伸びと学校に通い、生活できます。

この環境の中で、成績もぐんぐん伸びて行きました。特に一生懸命勉強しているわけではなかったのですが、授業が楽しく、宿題や予習も楽しくなってきたのです。成績が上がれば、先生も応えてくれるし、周りに信頼されます。



社長宅でホームパーティーの様子

日本では試験や受験の勉強ばかりで、本当に自分が興味を持っている事の勉強はできませんでした。例えば、アメリカでは読む本も自分で決めることができます。感想文を書いたら、先生は決して否定せずにほめてくれます。日本では答えは一つですが、アメリカでは正解は幾つもあるのです。大事な事は、自分の正直な意見を述べる事です。そこから議論が始まります。

その様にして、先生は生徒のモチベーションを上げてくれます。だから。オールAになったのも、「知らない内に」というのが正直なところですよ。

それをきっかけに、インターナショナルスチューデント（国際生徒会）の委員長になりました。その役割はいろいろありましたが、例えば、問題を起こした生徒に対して、生徒会がその生徒を審査するのです。決断を下すのも生徒会。それだけ、先生方が生徒を信頼してくれているので、その期待に応えたいと思うようになりました。

高校を卒業後、サンタバーバラ・カレッジを経て、現在はUCLA医学部に在学中です。日本の高校で不登校だったことが夢の様です。あのまま、日本にいたら、私はどうなっていたか分かりません。



現在通っているUCLAキャンパス

今、日本にいる高校生や大学生、それに不登校生は、悩みも大きいと思います。でも、自分のやりたいことが見つからないのであれば、色々なことに挑戦してみてもどうでしょうか？その選択肢の大きなものが留学です。日本は閉鎖的でやりたいことが見つかって、それを実践するにもハードルが高いです。自分のやりたいことに向かって挑戦すれば、絶対に自分に返ってきます。



## AKIRA ANDO

高校時代、大学受験をきっかけに引きこもり。3年間の引きこもりを経て留学。語学学校の後、念願の州立大学に入学。

受験勉強を3年間やってうまくいきませんでした。良い成績が取れないので更に悪い方向へ。悪循環が続き、やりたいことも見つからず、ゲームばかりをする毎日でした。廻りに引け目を感じていたため、学校の先生にも相談できず、一人でもんもんとするばかりで、母とは喧嘩がたえませんでした。その内、引きこもるようになり、友達との交わりもおっくうになっていました。このまま受験を続けようか迷っていたところ、不登校の友達がアメリカ留学で成功したという話を母から聞き、留学を決意しました。2004年8月に渡米しました。



ホストファミリー&IGEスタッフと一緒に

アメリカの第一印象は、フレンドリーで親しいことにびっくり。又、やりたいことは自分で見つける、という習慣がとても新鮮でした。思いついたら行動するという自由さにもひかれました。ホストファミリーにもとってもよくしていただきました。親元を離れて暮らすのが初めてで、初めは不安がありましたが、本当の息子のように物事を教えてくれ、慣れないアメリカ生活を支えてくれました。ステイ先には、日本人のルームメイトが2人いて、兄弟のような感覚で接してくれ、人生、夢、アメリカでの体験について、毎晩のように語り合う事ができました。日本では、引きこもっていたのもあって、そういう友達との出会いもなかったので、とても嬉しかったです。

1年間と決めて渡米したのですが、日本に帰っても、新しく何かをやりたいという目標がありませんでした。一方、夢を持って留学をしている友達や、IGEの継続的な激励のお陰で、半年、たった頃、自分もアメリカで大学に行こうという目標ができました。その後は、英語の勉強にも力が入り、1年間の語学留学の後、Saddle Back Collegeというコミュニティーカレッジに入学する事ができました。

入学後は、学校は楽しいと思えるようになりました。クラスの半分以上がアメリカ人で、自分の話していることに皆が興味をもってくれます。アメリカだと、生徒が質問をすると、皆が異なる色んな考えを発言し、予想外の意見が出たりします。日本では、「正解は常に一つ」で、決められたルールから外れる事はできません。しかし、アメリカでは他人と違う事は当たり前で、とても伸び伸びと勉強できるようになりました。又、アメリカの学校では、自分が勉強できなくても、あまり偏見や差別がありません。日本だと、人の目が気になり、自分で気持ちを抑え込んでしまいます。でも、アメリカでは、物事を隠さず接してくれる。いろんな考え方を受け入れてくれる。皆と一緒に悩んでくれます。先生も全然違います。日本は教師と生徒の間には壁がありますが、アメリカの先生はフレンドリーで、且つ、生徒のことを生徒の立場になって考えてくれます。しかも、学生達がパーティーを開くと一緒に参加して楽しんでくれる時もあります。

アメリカに来るまでは、自分がアメリカにいるイメージは描けませんでした。日本だとひきこもりや不登校に対して偏見などありますが、アメリカではそんなことはありません。いろんな考え方をもっているの、話しているとおもしろいし、すぐに仲良くなります。皆考えを素直に話してオープンマインドになれば仲良くなれます。悩んでいる人は是非アメリカに来た方がいいと思います。

2010年9月からカリフォルニア州立大学に入学。専攻はITで、卒業後はソフトウェア・エンジニアになる事を目標に頑張っています。



在学しているCSUフラトン校



## SHIHO NOTSU

日本の通信制の高校に在学中、短期留学を2回経験。

2011年から海外の大学に進学が決定。国際ビジネス学部を専攻する予定。現在、正規留学に向け、英語を勉強中。



英語の先生と

私が不登校になったのは、中学二年生の秋ごろでした。自分がなぜ不登校になったのかを考えると、これとっていじめとか明らかなきっかけはなかったように思えますが、当時、友人が自分をどう思っているかや、自分の言動の良し悪しを異常に気にしていたのを覚えています。

友人同士の関係や会話を考えるより、ひとりでいたほうがましだと、仮病を使って休み始めると、いよいよ本当に通えなくなりました。元々ひとりでいることが好きだったので、本当

なら無理に仲良くしなくとも自然体で学校に通えばよかったのですが、たくさんのクラスメートの中でひとりでいられるほどの勇氣もありませんでした。

しばらくは理由を聞かれても答えず、一日中何も考えずに部屋で過ごす日が続きました。一般の高校に進学しても、「自分はまともに中学も通わなかった」「まわりよりもはるかに劣っている」「この子達のようにはいできない」などと、限られた環境で過ごしてきた間に自信を失っていた私は、結局、通信制の学校に通うことになりました。そんな自分の一つの転機になったのはアルバイトでした。仕事だと割り切ると、あれほど苦だった人間関係も気にならず、一か月、二か月と続けているうちに少しずつ自信を取り戻し、他人との付き合いにも慣れてきました。

バイトでお金を貯めながらも、次に出てきた心配事は、将来、進学などをどうするかということでした。「自分はまともに学校にすら通えなかった」。将来のことや学問のことに関して考えると、ネガティブになってしまい、自棄になった時期もありましたが、そんな時に、ふと少し前に聞いていた「短期留学」を思い出しました。留学といわれて、ものすごく英語ができて頭のいい人が行く、そんなイメージしかなかったのですが、短期なら学校も語学だけだし、何より新しい何かの発見があるかもしれない、と興味を持ちました。当時はそのくらいしか考えてなかったのですが、今思うと、学校に通わなくなってからいつも付きまとうネガティブな考えを、まずどうにかしたかったのかも知れません。

そして、最初の留学をすることになりました。今まで不安になるとすぐにあきらめる癖がありましたが、勢いで飛行機に乗った以上、引き返すこともできません。そう思うと、それ以上不安を感じることもなくなりました。



語学学校のクラスメイトと

アメリカの生活で、自分にとって良かったことは、日本ではどこへいっても聞かれる、「どこの学校？」とか「何部に入っているの？」という所属を聞かれないことで

した。所属など関係なく、今現在、目の前に立っている私自身を評価されることが、とても新鮮で嬉しかったです。留学を経験する前は、毎回聞かれるこの質問がいやでたまりませんでした。帰ってからは、そんなの、もう気にしなくてもいいし、意地を張らなくても、自然体でいられば良いと思えるようになりました。

そして、これまで二度の短期留学を経験して、自分自身が大きく変わることができました。一番大きな変化は、「自分が何を持っていない、劣っている」ではなく、「自分が何を持っているか」というような考え方ができるようになったことです。不登校生である私が、他の人より「持っている物」は、勉強でもスポーツでも社交性でもなく「自由な時間」でした。今では不登校になったことを悔やんだり後悔したりすることはなくなりました。ずっと自分の中にあったコンプレックスを、留学をきっかけに、逆に強みにできるようになりました。本当に思い切って留学して良かったと思います。

もともと人とコミュニケーションをとったりするのがとても苦手だった私ですが、様々な考えや文化をもった人々と交流して、その楽しさを実感することができました。帰国してからも、バイトしながら、英語の勉強を続け、日本にいる留学生のためのボランティア活動にも参加しています。高校卒業後、大学も、思い切って海外に出てみようかと考えています。

そのためには、楽しむだけではなく、英語の勉強などもかなり努力しなくてはなりませんが、昔の私なら、楽しむことさえできなかったでしょうから、これからも少しずつ自分が変わっていけるように、成長していけるように頑張りたいと思います。



## OKI SEI

東京都出身。中学、高校と不登校。ゲーセンへ入り浸りの毎日から留学。一転、生まれて初めて勉強が面白くなった。現在、オレンジコースト・カレッジ在学中。

中学生の頃、ラグビー部に所属していましたが、3年生の大会で右足を怪我。学生時代の全てをラグビーに捧げていたので、この怪我をきっかけに練習に出られなくなってからは、学校へも行かなくなってしまいました。

中学2年の頃からスロットが好きだったのですが、不登校になってからは、朝から夜10時くらいまで1年間、毎日、スロット通い。高校に進学したものの、学校に馴染めず、そのまま不登校。このままでは、まずいと分かっていたものの、自分はどうしたいのか、どうするべきなのか、考えるのも億劫(おっくう)になっていました。

そんな時、留学という選択肢を、親から提案されました。最初は行きたくなかったのですが、親やIGEの平田社長の説得もあり、2週間だけの体験留学という約束で、渡米しました。1週間は語学学校に通い、残り1週間は、現役留学生と食事をしたり、大学を見学したり、ビーチに行ったり、アメリカの文化を体験。気がつけば、渡米前の“来たくない”という気持ちはなくなって、逆に、アメリカ生活を心から楽しんでいる自分がいました。何より印象に残ったのは、ほんの2週間の滞在でしたが、友達ができたこと。生まれて初めて、友達と色々な事を話ることができました。日本に帰国後、もう迷いはなく、“留学しよう！”と決意しました。

留学して本当に良かったことは、「様々な人との出会い、そして、様々な価値観との出会いがあったこと」です。友達と悩みを語ったり、それぞれの国の話をしたり、ファッションの話をしたり・・・人と触れ合うことがこんなにも楽しいことだと気付きました。



体験留学でラグナビーチを観光

日本ではゲーセンやスロットばかりで、人生の話など一度も語ったことはなかったです。日本は、不登校というレッテルを貼られ、白い目で見られます。一方で、アメリカは、そうではなく、普通に受け入れてくれるので、とても居心地の良さを感じました。このように、アメリカには、心を開かざる得ない環境が整っています。

アメリカに来てからの生活はとにかく楽しい！英語の勉強すらおもしろく感じ、毎日、一生懸命勉強するようになりました。こんなに勉強したのは生まれて初めて。そのおかげで、英語はグングン上達し、気が付いたら上級クラスに上がっていました。

日本で英語を勉強するのとアメリカでするのは全然違います。英文法を中心に教わる日本とは違い、アメリカでは、スピーキングやリスニングにも力を入れ、実践的な英語を学びます。学校で習ったことは、すぐに生活で使えるので、頭にも入りやすい。また、自分の英語が伝わることに喜びを感じ、もっと勉強したいと思うようになったのです。日本にいたときは、全く勉強をしなかったのに、アメリカでは、自ら進んで勉強するようになったのが、大きな変化の一つです。

今年から、Orange Coast College（コミュニティ・カレッジ）に進学しました。将来は、UC系の大学への編入を目指しています。やはり語学学校のときとは違い、授業についていくのは大変ですが、自分でスケジュールを立てて勉強しています。平日は、大抵、学校から帰ってきて、すぐに勉強。週末は、息抜きがてら、友達と出かけることが多いです。そして、思い切り遊びます（笑）。勉強と自由時間のバランスを上手くとって、充実した日々を過ごしています。

日本で不登校に悩んでいる人へ！まずは、体験だけでもよいので、留学に挑戦してみてください。数日、数週間でも行ってみる価値はあります。アメリカには、まだ体験したことのない世界が広がっています。きっと、人生が変わりますよ、僕のように……。



在学しているオレンジコースト・カレッジ（CA）